

令和2年度 岡山県立笠岡高等学校 学校経営の具体的計画

本年度の重点目標	分掌	本年度の重点目標を達成するための課・学年での重点目標 (めざす具体的な姿)	本年度の重点目標を達成するための課・学年内での具体的方策 (教育活動)	評価基準	
1 多彩な学びを支え、個を生かす学習指導	教務課	「千鳥型学習指導のスタンダード」に基づく授業の実践、および継続的な指導の改善を推進する。	校内互見授業と公開授業において、授業実践の成果と課題を教員間で共有できるよう、指導改善の意見交換につながる枠組みを整える。	学校評価アンケート(生徒)で評価。 「笠岡高校で行われている授業は、魅力的で、意欲的に取り組みたくなる授業ですか。」 ①はい・そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④いいえ・そう思わない ①+②の割合(昨年度70%) 4:75%以上、3:70%以上、2:65%以上、1:65%未満	
	教務課	習熟度別少人数授業の効果を高める工夫について実践し、成果を共有する。	学力向上委員会と協働し、習熟度別少人数授業の効果を高める工夫についての実践を各教科に促し、その成果を共有できる枠組みを整える。	学校評価アンケート(生徒)で評価。 「選択授業や進路志望、習熟度等で講座を分けた授業は、あなたの学力の向上につながっていると思いますか。」 ①はい・そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④いいえ・そう思わない ①+②の割合(昨年度86%) 4:90%以上、3:85%以上、2:80%以上、1:80%未満	
	進路課	主体的な学びにつながる教科カウンセリングの充実を図る。	土曜日学校開放講座、考査前質問教室、教科面談等により、習熟度別の学びを促進し、主体的な学びにつながる指導の充実を図る。	生徒アンケートで評価。 「土曜日学校開放、考査前質問教室、教科面談等はあなたが自ら学び方を身につけるための指針となっていますか」 ①はい・そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④いいえ・そう思わない ①+②の割合(新規アンケート) 4:80%以上、3:75%以上、2:70%以上、1:70%未満	
	1年団	個々の生徒の進路目標に対応した学力を培うために、学ぶ意欲と基礎学力を身につけさせる。	進路課学習係・教科担任と連携し、学年全体で提出物指導や教科補充指導を行う体制を整える。	学校評価アンケート(生徒)で評価。 「笠岡高校の教育は、あなたの学力を最大限に伸ばすものになっていると思いますか」 ①はい・そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④いいえ・そう思わない ①+②の割合(前年全体:76%、1年生:71%) 4:75%以上、3:70%以上、2:65%以上、1:65%未満	
	2年団			基礎学力層と標準学力層の生徒を主な対象とした学び直しの機会を設けるなど、習熟度別の個に応じた学習支援をおこなう。	生徒アンケートで評価。 「学習支援によって、今まで分からなかったところが分かるようになりましたか。」 ①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない ①+②の割合(新規アンケート) 4:80%以上 3:60%以上 2:40%以上 1:40%未満
				発展学力層の生徒を主な対象とした高い志を持つ難関大学志望者のチームを作り、意識向上と行動変容を促す。	生徒アンケートで評価。 「チーム難関の取り組みの中で、学ぶ意欲が高まりましたか。」 ①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない ①+②の割合 4:80%以上 3:60%以上 2:40%以上 1:40%未満
	3年団		自ら学習面での課題を見つけ、それを解決するために即座に行動に移す姿勢を身につけ、家庭学習時間を安定的に確保させる。	受験生としての自覚を高める呼びかけや学習支援の充実を図り、学習意欲を高める。また、基礎学力層の生徒については必要に応じて、授業の予習復習状況の把握、課題の点検などをこまめに行い、適切に指導する。	学習実態調査の1週間の平均学習時間で評価。 (昨年度2年:4回平均182分) 4:270分以上 3:230分~270分 2:190分~230分 1:190分未満
発展・標準・基礎それぞれの学力層の生徒に応じた教育活動を行い、進路実現に必要な学力を身につけさせる。			習熟度別の授業や課題、土曜学校開放講座がより効果的なものになるよう、学年団全体で工夫する。また、個別指導や教科面談を中心とした指導で、発展・標準・基礎それぞれの学力層の生徒をきめ細かに支援する。	学校評価アンケート(生徒3年)で評価。 「笠岡高校の教育は、あなたの学力を最大限に伸ばすものになっていると思いますか。」 ①はい・そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④いいえ・そう思わない ①+②の割合(昨年度2年:73%) 4:75%以上、3:70%以上、2:65%以上、1:65%未満	

令和2年度 岡山県立笠岡高等学校 学校経営の具体的計画

本年度の重点目標	分掌	本年度の重点目標を達成するための課・学年での重点目標 (めざす具体的な姿)	本年度の重点目標を達成するための課・学年内での具体的方策 (教育活動)	評価基準
2 地域とともに、全校体制で取り組むキャリア教育	生徒課	ボランティア活動や社会貢献活動への積極的な参加を促し、社会へ寄与することの大切さを認識させる。	千鳥ボランティア(1回)、各種ボランティア活動、校外の地域の活動等への積極的な参加を呼びかける。	千鳥ボランティア等の校内外のボランティアへの参加者数の計で評価。 (昨年度:千鳥(6月)285、他91、計376) 4:400人以上 3:360人以上 2:320人以上 1:320人未満
	進路課	3年間を見通した進路指導により、早期に志望校を固め、進路実現に向けて努力する姿勢を生徒に身につけさせる。	進路の手引きを基本とした進路シラバスに則って、教員の共通理解を図り、生徒面談、ACT、進路LHR等を通じて、生徒の志を育む個に応じた進路指導を行う。	学校評価アンケート(生徒)で評価。 「笠岡高校は、面談などを利用して一人ひとりの生徒に応じた進路指導を行っていますか。」 ①はい・そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④いいえ・そう思わない ①+②の割合(昨年度:生徒93%) 4:95%以上、3:90%以上、2:85%以上、1:85%未満
			進路の手引きを基本とした進路シラバスに則って、教員の共通理解を図り、合同保護者会、三者懇談、保護者懇談を通じて、保護者とともに、生徒の志を育む個に応じた進路指導を行う。	学校評価アンケート(保護者)で評価。 「笠岡高校は、面談などを利用して一人ひとりの生徒に応じた進路指導を行っていると思いますか。」 ①はい・そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④いいえ・そう思わない ①+②の割合(昨年度:保護者83%) 4:85%以上、3:80%以上、2:75%以上、1:75%未満
	進路課	地域の人的・物的資源を活用して、生徒に自らの人生と社会との関わりについて主体的に考えさせ、進路選択をさせる。	生徒が自らの人生と社会との関わりについて主体的に考える能力を身につけられるよう、おかやま子ども応援事業における地域学校協働活動推進員との連携を図ったり、大学の出張講義等を活用したりして、本物に触れる機会を増やす。	生徒アンケートで評価。 「ACTでの外部連携による活動や学校で案内している外部の行事はあなたの進路選択に役立っていますか。」 ①とても役立っている ②役立っている ③あまり役立っていない ④役立っていない ①+②の割合(昨年度86%) 4:90%以上、3:85%以上、2:80%以上、1:80%未満
	図書情報課	生徒が図書及び情報機器を活用し自らの興味関心や学習内容を深めたり広げたりできるよう支援する。	教科等と連携した書籍を選定・購入・配置し、生徒が図書館内外で日常的に活字に親しむ環境を整える	一人あたりの貸出冊数の前年度比較で評価。 (昨年度:2219冊/550人=4.03、前年比94%) 4:前年度の95%以上 3:前年度の90%以上 2:前年度の85%以上 1:前年度の85%未満
	1年団	生徒が社会と自分の生き方の関わりについて考えながら自己の適性を見極め、自身の将来を見据えたコース選択や探究活動に取り組む姿勢を育てる。	地域学を中心としたACTのプログラムを引き継ぎ、さらに充実した取り組みとなるよう、ACT係を中心に学年団の連携を図り、実施する。	「未来開拓力(※)」ループリックでの生徒の自己評価において、「教養力」、「思考力」、「表現力」、「協働力」の項目の前期平均値(最大値5)を基準に、12月期の平均値で評価。 4:+1.0以上 3:+0.5以上、+1.0未満 2:+0 以上、+0.5未満 1:+0 未満 ※本校が育む「未来開拓力」とは、教養力、思考力、表現力、協働力、省察力、志力の6つの力である。
	2年団	社会と自らの生き方、そして、学問と自らの将来を関連づけて考えることができる、また、自らの未来を自ら拓くという自覚をもち、主体的な志望形成ができる生徒を育てる。	「テーマ探究」を中心としたACTのキャリアプログラムを引き継ぎ、さらに充実させる。	ACTプログラムの改善実績と、外部連携の実績数で評価する。 (前年の外部連携:2件) 4:改善し、外部連携が3件以上 3:改善し、外部連携が1~2件 2:改善し、外部連携が0件 1:前年踏襲のプログラムで実施
「テーマ探究」を中心としたACTのキャリアプログラムの中で、自らを振り返り、改善しようとする場面や主体的に自らの未来を考える場面を増やす。			「未来開拓力(※)」ループリックでの生徒の自己評価において、「省察力」、「志力」の項目の前期平均値(最大値5)を基準に、1月期の平均値で評価。 4:+1.0以上 3:+0.5以上、+1.0未満 2:+0 以上、+0.5未満 1:+0 未満	

令和2年度 岡山県立笠岡高等学校 学校経営の具体的計画

本年度の重点目標	分掌	本年度の重点目標を達成するための課・学年での重点目標 (めざす具体的な姿)	本年度の重点目標を達成するための課・学年内での具体的方策 (教育活動)	評価基準
3 主体性と豊かなつながりを生み出す生徒指導	生徒課	挨拶をはじめとしたコミュニケーションスキルを高め、好ましい人間関係を形成する能力の向上を図る。	挨拶を日々励行するとともに、マナー講座等の適時実施や声かけにより、社会で生かせる基本的な力の向上を図る。	学校評価アンケート(生徒)で評価。 「笠岡高校の生徒は、学校内や地域で、積極的に挨拶ができていますか。」 ①はい・そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④いいえ・そう思わない ①+②の割合(昨年度:55%、一昨年度:45%) 4:70%以上、3:60%以上、2:50%以上、1:50%未満
	生徒課	ホームルーム活動や生徒会活動(各種委員会や学校行事等)への生徒の主体的な参加を促す。	事前打ち合わせや振り返りを取り入れることによって、新入生歓迎行事や千鳥祭等を実行委員や各種委員・係を中心に生徒が主体的に取り組む学校行事にしていく。また、できるだけ多くの委員会で、生徒の主体的な活動に取り組ませる。	学校評価アンケート(生徒)で評価。 「ホームルーム活動や生徒会活動(各種委員会や学校行事等)に、生徒が主体的に参加していると思いますか。」 ①はい・そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④いいえ・そう思わない ①+②の割合(昨年度:生徒89%、一昨年度:82%) 4:90%以上、3:80%以上、2:70%以上、1:70%未満
	健康環境課	整美・保健・福祉の各委員会で、生徒から活発に要望・提案・企画などが出され、それが反映された活動を実現する。	委員会の担当する業務に対する関心や課題意識を高めるため、各委員会を適宜(年3回以上)開催する。顧問は生徒の提案に対して、その実現性の高低にかかわらず、生徒の意欲を尊重し、取り組みを適切に支援する。	各委員会活動における新しい取り組みの有無で評価。 (昨年度:どの委員会も新規あり) 4:3つの委員会で実施できた 3:2つの委員会で実施できた 2:1つの委員会で実施できた 1:新しい取り組みができなかった
	総務課	多様な学習機会を提供し、活動をとおして、課題を発見し解決する力の向上を図る。	オープンスクールや千鳥ゼミ、中学校母校訪問、学校説明会で生徒が主体的に活動する場を設ける。	オープンスクールや千鳥ゼミ、中学校母校訪問、学校説明会に運営スタッフとして参加した生徒数で評価。 (昨年度175名) 4:180名以上 3:160名以上 2:140名以上 1:140名未満
	図書情報課	図書委員会の図書に関わる主体的な活動を推進する。	カウンター当番や蔵書整理を通常の図書委員の仕事に加えて、ブックカフェの企画・運営など図書委員の主体的な活動を支援する。 図書委員に地域と連携した図書活動を企画・運営させる。	図書館業務や委員会活動への図書委員の参加率で評価。 (昨年度:100%) 4:95%以上、3:85%以上、2:75%以上、1:75%以下 児童クラブとの交流回数で評価。 (昨年度:3回) 4:4回以上、3:3回、2:2回、1:1回以下